

第1回 金沢湯涌江戸村活性化検討委員会 議事録

■日程・場所

日時：令和6年8月1日(木)10:30~12:00

場所：金沢市役所第一本庁舎 7階 第4委員会室

■議事録

1. 開会

2. 局長挨拶

委員の皆様におかれましては、就任をご快諾いただき感謝申し上げます。また本日は御多忙のなかご出席いただき重ねてお礼申し上げます。湯涌江戸村については、江戸時代の加賀藩を中心とした武士系住宅、町家、農家等を移築・保存しながら公開している。当時の人々が暮らしてきた家を通して、その時代の歴史文化に対する理解を深めていただくとともに、市民が学習、体験活動できる文化施設として平成22年に開村しそれから13年が経過している。今年度から新たな江戸村の事務所機能を備えた管理棟の整備に着手するに併せ、江戸村の魅力発信や集客力の向上など、江戸村の活性化に向けた取り組みについて本委員会でご検討いただきたい。ここのお集りの委員のみなさまは各分野で専門的な知見を有している他、湯涌地区の実情や江戸村の運営・維持管理に精通している方である。今年度の本委員会の議論を踏まえ、次年度以降江戸村活性化に向けた具体的な取り組みを進めていく。委員のみなさまには忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

3. 委員紹介

4. 委員長選任

事務局： 続けて委員会の委員長の選出についてお諮りする。設置要綱第4条第1項の規定では委員の互選によりこれを定めるとなっているが、事務局としては今回の検討委員会の趣旨を踏まえA委員にお願いしたいと存じるがいかがか。

委員： 異議なし。

事務局： それではA委員に委員長をお願いしたい。これからの議事進行については要綱第5条第1項の規定によりA委員長にお願いする。

委員長： まずは委員長に選任いただき感謝申し上げます。本日の委員会に先立って、事務局と共に湯涌江戸村の視察に行ってきた。金沢の歴史、文化を体感できるような施設になっている。この資源をどう活かしていくか、さらに魅力的になる

ように、市民の文化を象徴できるような施設にしていきたい。

私は金沢大学で3年前にできた観光デザイン学類で教員をしている。日本でも文化観光の形態が必要になってくると言われている。そういう意味でも湯涌江戸村は貴重な資源だと思っている。また金沢の観光客は1泊2日が多いので、もう少し長く泊まっていただくことで、金沢の奥深い文化を感じてもらいたい。SDGs ツーリズムなどいかに文化体験をするかが金沢でも重要だと思っているのでそれを踏まえて湯涌江戸村も検討していきたい。

議事に先立ち、要綱第4条3項の規定により委員長代理を選任する必要がある。私からはB委員を選任したいと思うが、B委員よろしいか。

B 委 員： よろしくお願ひ申し上げます。

5. 議事

事 務 局：一資料説明一

資料1「金沢湯涌江戸村活性化の方向性について」

資料2「管理棟に求められる機能について」

委 員 長： それでは意見交換として今の説明に対し質問や意見を賜りたい。まずは(1)金沢湯涌江戸村活性化の方向性について議論する。本検討会は3回予定している。10月の2回目の会議に向けて、どのような活性化策があるのかを提示する。テーマを縛らず、忌憚のないご意見をいただきたい。

B 委 員： 江戸村としての特徴をどう出すか。江戸村で検索すると、日光江戸村が出てきた。テーマパーク的に魅力的だと思ったのが、まちづくりの世界では1石5鳥と言われるが、行くと何か5つくらいメリットがある、もしくはそこに来る人が5パターンくらいの集客が見込める、親子連れや高齢者、観光客など様々な方が来られる集客が日光江戸村はできていると感じた。そのなかのジャンルとしては体験スペース、食事スペース、お土産スペース、学びスペース、変身スペース、芝居をみるスペースがあった。そういった機能全てではないが1石5鳥のようなことができるよ。ただそれは江戸村を体験してもらうためのきっかけにすぎない。中身として、例えば白川郷は住んでいる人がいるが、川崎市立民家園は中に住んでいる人はおらず管理されている施設である。江戸村の場合は、中に住んでおらず外に地元の方がいるため、周辺の人に関わっていることが見えると良いと思う。周辺の小中学生や大学生も活用できればよい。

江戸を知りたいとなった時に、日光江戸村ではなくなぜ湯涌江戸村なのかをうまくPRできるものが必要である。湯涌江戸村はいろいろな地域から各民家を集めてきたものである。どこから集めてきたのか、湯涌を飛び出して、その場所にいける仕組みもあっても良いと思う。

委員長：大きく2つの話があった。1つはいつ頃の建物がどこにあって、どう使われていたのかという金沢全体のつながりを見せることが必要だということである。これは江戸村のコンセプトや全体の概要を伝える場所がないというJTBの聞き取りにもあった話だが、管理棟でもできるかもしれない。もう1つは、江戸村を誰にどう伝えていくのかというターゲットやその中身、そこに来ることで何ができるのかを整理する必要があるということだった。地元の小学生に遠足で来てもらうことも大切だと思っているが、その時に江戸村で何ができるのか整理できているとよい。

C 委員長：町会連合会の会合で、江戸村、みどりの里、創作の森、夢二館の連携の話がよく出る。小学生が創作の森に来て体験をし、江戸村を見て、夢二館の文化に触れるというやり方を金沢市の教育委員会で企画し、児童に体験してもらえると良いと思う。

委員長：湯涌江戸村、湯涌全体、金沢市全体の各スケールで考えていく必要がある。

D 委員長：文化財を守る観点だと、建物に入ると傷んでしまうので活性化を数で考えると相反するところもある。江戸村としては、様々なメニューを用意しているつもりだが、これ以上加えるとなるとマンパワーが足りない。建築の技師が1人いるが、江戸の生活文化を伝えようと思うと、展示の工夫と解説の工夫が必要だと思う。民俗的な知見がある人に、協力してもらえると良い。学芸員として雇うことは難しいだろうが、そういった企画の時は企画の段階から提案してもらうまで手伝ってもらうことなどはできるだろう。

委員長：人手の問題については、事例説明にもあったARやオーディオガイドを入れて、学芸員の負担を減らすこともできると思う。

E 委員長：現状の内容は江戸村の継承・発展という点で大変素晴らしいと思っている。江戸村には前身の百万石文化園江戸村があり、ホテルが附属施設として民家の野外博物館を公開していた。昭和30年代くらいだったと思うが、全国でも先駆けて民家の保存・公開をし、しかも民間が相当大きな規模で行っていたため大変注目されていた。ただ民間だったということもあり、経済的な理由か詳しいことはわからないが閉鎖されてしまった。普通であれば閉鎖され建物をどうしようか、たぶんムリでしょうね、ということになるが、優れた建物、本物を残していたこともあり、金沢市が再々移築をして整備したのが江戸村だということは重要な点である。日本の歴史的建造物の保存の中でも画期的である。ただ単につぶれたホテルの施設を再利用しているという低い次元のレベルではない。日本の文化財を金沢市はまとめて継承したことは評価できる。様々な金沢市及

び石川県下の伝統的な暮らしがわかる優れた建物が、本来の姿を正確に保ちながら伝えられている点。種類が多く、上層～中層の人まで暮らしのレベルに併せた建物が残されており、町家から農家、農家に対しても草葺きの農家など様々な種類がある。時代によっても変化があり、その中に民俗資料も残されており暮らしがわかるようにしっかりと展示がされている。比較的コンパクトな敷地なので簡単に周遊することができる。それは本来の民家のあり方からすると、建っている場所に出向いて大事にしようという気持ちを育むことは重要なことだが、一方現地で残せなかったものを写真と図面だけで残すのに比べて、実際に実物が体験できる、空間体験して触ったりすることもできる、中に入るとひんやりするという体験ができることは何事にも代えられない重要なことだと思う。それを比較的容易にできる利点を活かしていくことが必要である。

いかに知ってもらおうか様々な意見が出ていたが、私も深く関わっている川崎の民家園では土間から見てくださいというスタイルは20年前に終了しており、現在は囲炉裏に火を焚くボランティアの方が最大4軒、少なくとも1-2軒は必ず火を焚いてお客様をお迎えしている。そこでいろいろとふれあいができ、何かしら必ずイベントをやっていたり展示室を見られたりという状況にしている。さらに川崎では小学校3年生の社会科のカリキュラムで昔の生活を知るという項目があり、100校以上が見学あるいは井戸の水くみや臼挽きなどの体験をしている。中学生にもたくさん利用してもらいたいが、クラブ活動で忙しいため課題になっている。クラブ活動の単位であれば茶道や華道をする場、活動の拠点の一つとして使ってもらえる可能性もある。高校生に対しても同様である。大学生の場合は、建築や文化系の学生の利用も考えられる。

湯涌江戸村では金沢職人大学校との連携で畳を直すということもしており、職人大学校の方にも活きた展示をする点で協力してもらえると良い。行けば何かやっている、何か体験できるという状態になるのではないか。大人の休日倶楽部やクラブツーリズムなどで他とは違う観光も行われているようなので、特別ガイドのような形も考えられる。その他湯涌温泉の中にあるので、宿泊者限定のサービスをホテルと連携して考えるというのはすごく可能性があると思う。例えば横浜の三溪園でやっている朝に蓮を見る会があるときは朝早く開園しており、予約をしてお弁当をケータリングできる。そういうものがあれば朝散歩のような形で江戸村を見て、希望者は建物の中で朝ごはんが食べられるなどできると宿泊客も面白いと感じるだろうし、夜間体験も同様にできると思う。建物の魅力をしっかり伝えることで大切なものだと分かってもらえれば変な扱いはされないの、まずはいろいろなチャレンジをしてみる事が重要である。そのための人的整備が必須であるということも市にも理解していただきたい。

委員長： 周辺の宿泊施設や観光業者とのつながりもとても大事で、早朝や夜間開館は特別な体験になるのではと思う。F 委員、そのような可能性や他にこういった

活用の仕方があるのではというご意見があればいただきたい。

F 委員： 宿泊客が望むのは夜。兼六園でもライトアップを見て来る人は多く、夜のコンテンツはとても魅力的。そのため江戸村をライトアップして、夜も開館することは魅力的である。

委員 長： 夜間開館も人手が足りないというハードルはあるが、それさえクリアできると良い。何かするには人手がいるということだが、G委員、保存会として日頃から建物の維持管理や様々な作業をされているが、課題や今後の要望等あればお願いしたい。

G 委員： 保存会では人にたくさん来てもらおうという視点より、綺麗にしていく、大事にしていこうという考えが多い。たまたま思ったのは、過去あったものを湯涌温泉の方々が展示しているが、本来は河内町で展示してもらいたかった。以前創作の森に集まった人が、夢二の歩いた道を歩いて、私の畑に来ることがあった。どこに行ってきたのか聞くと、「夢二の歩いた道を歩いてきた」と言い嬉しかった。家の前の水車でお米を洗っていた大祖母が夢二の草履の紐がきれたので渡してあげた、お米を洗うのに必要な石臼が今でも家にあるよと伝えると「見てみたい」という観光客もいる。そういったことは人気があると思っているので大事にしたい。

委員 長： 人が回遊し、その中で住民と会話し地域を感じ、お互いに得るものがあるということだろう。

G 委員： コロナの前だが江戸村の村内で囲炉裏火をして、冬にもちを焼いて食べさせたことがある。来訪者は喜んで長い人は1時間いた。わずかな気持ちを大事にするとよい。また萱だけでなく笹屋根の家も紹介するが、これもまた喜んでどこかと探し、その家は和紙を作っており、これが紙の原料だということを教えてあげるとこれは楽しい旅行になったありがとう、という声もよく聞く。もう少し考えるともっと良くなるのではと思う。保存会は草むしりなどを一生懸命やっているがそのような時間はわずかしかないので、地域の人にも協力してもらって地元でしか説明できないことを説明していくことができればよい。管理棟にトイレができるのも待望している。

委員 長： 時間もないので整理したいと思う。資料1の27ページをご覧いただきたい。こちらに活性化の方向性の素案がある。今の議論はだいたいここに入っている。全体のコンセプトをいかに提示するか、PRをしないとイケない、市内の子どもに来てもらうために学校との連携や発信が必要、早朝夜間の散歩や周辺施設と

の連携、そのための人手確保。次の協議会ではこれを具体的にしていこうということになるが、これ以外に大事だと思うことはあるか。

B 委員： 先ほどE委員が特別ガイドもありではという話をされていたが、誰がその場所にいてくれるのかも考える必要がある。さらに湯涌地区内の様々な施設をつなぎたいというニーズがあるなかで、仮住民のようなものをつくれなかつた。例えば江戸村アイドル、江戸村レンジャーなどが、常にいるわけではなく半年に1度いてくれる。宿泊客の人も仮住民になり関わるとよいと思う。仮住民になってもらうと宿泊サービスがあったり、ソフトクリームをもらえたりなど何かしらのリターンがあるとよい。地元の小中学生に仮住民として来てくれないか聞いてみることもできるだろう。あまり人を呼び寄せたくないということもあるのかとも思うが、江戸村レンジャー、江戸村アイドルとしたときに、江戸をテーマにしたコスプレフェスを招致すると、人がたくさん来るのではないか。コスプレ人口は34万人ぐらいいる。湯涌江戸村が望むかは分からないが、一時的に人は来るし、きっかけづくりはできると思う。コスプレフェスでは2,000円ほどの参加料で撮影会をしている。

委員長： 仮住民は保存会のみなさんか。

B 委員： 保存会の皆さん、地元の学生、観光客もなれるとよい。どうやってなるかは考えないといけない。

F 委員： ぼんぼり祭りの時は、来場者が3万人ぐらいいる。その時に江戸村と連携を何かできないか考えていた。ぼんぼり祭りの際、江戸村はどんな感じだったか。

D 委員： あくまで夢二館あたりが主会場なので、江戸村やみどりの里は駐車場としての貸し出しがメインになっている。ぼんぼり祭りが終わった後は夜で閉館しているため、来園することはまずない。一応無料で開放はしている。

F 委員： ぼんぼり祭りの時にコスプレしている方も結構いるため、撮影会はありかもしれない。

D 委員： 江戸村でも貸館で、コスプレ撮影している人はいる。ニーズはあるが量的な問題で充たせていない。

委員長： 開館時間も問題である。そこがクリアできれば連携もできるのではないか。提案のなかにもあったMICEやロケ地としての使い方も考えられる。提案は27ページの事務局案に沿っているのを進めていきたい。

事務局： 今後、活性化策を考える際に、本来の日常としての魅力アップと非日常的な魅力とのバランスのとり方も考える必要がある。E委員の川崎民家園ではどうしているか。

E委員： 世界遺産でインタープリテーションという概念がある。活用する上での最低限の合意、この施設はこういう施設で建物はこういう性格のものという初歩教育は博物館で知ってもらったうえで活用することが重要である。使う方もその施設の魅力を知ったうえで、そこでできることを考えてもらうという方向に持って行かないとその時だけやっているけれど行ってもどうなのか、と逆に衰退することもある。

また管理棟に対しては、一昨日重要文化財の茅葺の民家が燃えた。自分のところでは注意していたが隣の火をもらってしまった。注意していれば起きない。管理棟には最優先で防災機能、消防との連携もあると良いと思う。周辺の地域住民、旅館の方々との消防訓練もできると良いと思う。ガイダンスルームで、日本でも有数な施設だということをしっかりPRしてもらい、もしくは小学生の宿題に答えられるようなレファレンス機能、それを支えるための資料庫は必要だろう。収蔵施設は川崎でも困っており、屋根裏に入れておけばよいか50年やってきたが、40年目くらいから耐震性を考えないといけなくなり、ここ10年は民家の屋根裏に収蔵するのは耐震改修する際の耐重軽減で他へ移そうということになり苦労している。

委員長： 江戸村の特徴としては、本物があるということが一番大事であり、活動もたくさんされているため、それを整理してどう伝えるかもまず大事である。その上で入口を増やすための活動として非日常的な使い方ができるとよいのではと思う。

ここからは管理棟の話もしていきたい。着工に向けてこれから設計に入るところである。41ページが提案である。先ほどE委員から資料庫とガイダンスルームが必要だと話があった。使い方のイメージであるが、来訪者が江戸村の全体像を管理棟で知った後、江戸村を楽しむということを考えている。限られた面積のなかに様々な機能が求められている。道具庫、事務室、トイレなど整理しないといけない。こちらに対して意見があればいただきたい。

G委員： 飲み物とトイレはかなり苦労している。駐車場入ってトイレを聞かれても結局みどりの里に行ってもらった状況である。保存会も管理棟がないのは辛い。みどりの里の自動販売機もなくなってしまった。なかなか湯涌温泉まで行って買ってくる人はいない。

委員長： ゆずサイダーが売れるのであれば観光協会としても協力できるという話があ

った。難しいのは江戸村では関係するものしか売れないことだろう。

D 委員：市の施設であるため、物販が原則難しい状況である。ニーズはあるので管理棟で物販ができることを含めて再検討していただきたい。

事務局：江戸村の条例を踏まえて考えないといけないが、川崎民家園では物販をしている。市の施設としての設置条例で決めているのか、至った経緯を知っていれば教えてほしい。

E 委員：市の条例に基づいて設置したのだと思うが、古民家でお蕎麦を経営してくれる食堂業者を募集した。その結果集まらず市の食堂をお願いしているところに依頼している。入園料を払わず外からも入れるように入口を2つ設けている。その他近隣のお団子屋さんが店頭販売しているが、以前は園から委託、現在は指定管理になったため指定管理者から便宜を図っているのではないか。また園の外が生田公園緑地であり、公園の入り口で週末マルシェやフリーマーケットをしている。

委員長：やり方を工夫しながら解決策を見つけられると、湯涌らしいものを販売したり地域の連携も生まれるのではないかと思う。

G 委員：駐車場から斜め北を見ると、江戸村の敷地にクルミの木がある。江戸村を県道から見るときれいに見えるはずだが、木が邪魔で菜の花などが見えない。切ってしまうでもいいと思う。

事務局：管理棟にロビーを設けている。無料で受け付けの手前まで入ってもらえるようにしているが、この印象をお聞きしたい。

D 委員：中廊下的になってしまうため、奥に行くほど暗いイメージになっている。ロビーは基本的にたまり場であるため、ある程度広がりのある空間として江戸村に来られる方がくつろげる場所であって欲しい。また、入園しない同行者が待てる場所にしてもらいたい。

事務局：活性化策と併せて管理棟についても会議の中であり方を相談していきたい。

委員長：会議室は部屋でなくオープンな場所で話せる、比較的自由にレイアウトが考えられる空間にできると良い。

B 委員：椅子と机だけではなく、靴を脱いでくつろげるスペースがあると良い。子ども

もがくつろげるものがあったり、DVDや江戸の知識を深められるような関連本があると尚良い。

委員 長： これをもとに次回の検討委員会で検討を進めていきたい。事務局と話ながら具体的な形にしていければと思う。

6. 閉会

事務局： 委員の皆様におかれましては、長時間にわたり活発なご意見をいただき感謝申し上げます。最後に課長より閉会の挨拶を申し上げます。

事務局： 本日はお忙しいなか、江戸村の活性化という難しいテーマで長時間議論いただき感謝申し上げます。またA委員長には円滑な議事進行をお礼申し上げます。今日いただいたご意見はとても参考になった。まだ言い足りない部分もあると思うので、改めて次の10月の会議までの間に事務局の方から案内し、意見聴取したい。それを踏まえ10月に向けて資料作成を進めていく。管理棟の案のたたき台も作成し、委員の皆さんに中間報告しながら修正を加えていきたい。最後に本市の歴史都市まちづくりに対して、ご指導ご鞭撻いただくようお願い申し上げます。今日は長時間にわたりありがとうございました。

－ 以 上 －